

町内探検隊

平成2年に区画整理によりできたまち、新明町・東新町・浜富町・法連町・東明町を探検します。

◆古き建造物

東明町を歩いていると、「安祥毘沙門天」がありました。平安の志貴庄時代、住民の安全・幸福・財産を祈願して祭られたといわれています。祈祷の片付けをしていた築山さんに話を伺いました。「ここでは、年に15回ほど祈祷をしています。」



安祥毘沙門天と築山さん



三十三観音

ます。祈祷の参加者へ、まちの人が作った炊き込みごはんなどを振る舞うんですよ。」

毘沙門天から北へ進み、浜富町の複合型娯楽施設が見えてくると、道沿いに「富士塚」が立っていました。戦で亡くなった人を弔うために建てられ、市指定史跡にもなっています。

新明町へ入ると、延命地藏菩薩の境内に「三十三観音」がありまし

今月の舞台

新明町・東新町・浜富町・法連町・東明町

た。一体一体かわいらしいよだれかけを身につけていました。

◆沿線沿いに

JR東海道本線と名鉄西尾線が交差する線路沿いの東新町を歩いていると、大きな緑色の丸いタンクと銀色の四角いタンクが出現。その正体は、「中部配水場」でした。

線路を渡ると、椿の花が咲いている所に出ました。ここは、法連町の「土器田公園」。まちを巡ると、いろいろなものに出合えますね。



中部配水場

わたしの望遠郷

とわだ 青森県十和田市

私の故郷は、東北新幹線の七戸十和田駅から車で15分の青森県十和田市です。高校を卒業するまで、このまちで過ごしました。



十和田八幡平国立公園にある十和田湖は、紅葉で有名ですが、地元の人には新緑の季節が人気。木々からの木漏れ日がとてもキ



十和田湖 提供：十和田市

レイです。おすすめは、十和田湖から流れ出る奥入瀬溪流。川沿いには遊歩道があり、歩いて自然を満喫できます。奥入瀬溪流館では、大自然の息づかいをたっぷり含んだ奥入瀬源流水で入れたコーヒーを味わうことができます。

食べ物は、十和田バラ焼きやきりたんぽが知られています。また、魚とお米と野菜と一緒に漬け込む「飯寿司」も名物。その見た目に、初めて食べる人はびっくりしますが、地元では、夕食のおかずや酒のおつまみの定番です。また、馬刺しや味噌仕立てにした馬肉鍋など、馬肉もよく食べます。



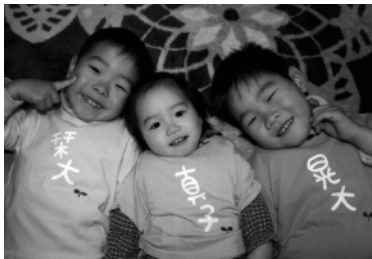
溪流沿いを散策 提供：十和田市

冬の最低気温はマイナス10℃以下になり、放置すると水道が凍ってしまいます。そのため、電熱線などを巻きつけて温め、凍るのを防いでいます。また、トイレに小さいストーブを置いて温めている家も多いです。

交通の便がよくなったので、一度訪れてみてください。古川優子さん(里町)

元気っ子アルバム

千田晃大くん(6歳)
菜太くん(4歳)
真子ちゃん(1歳)



ケンカばかりのお兄ちゃんたち。でも、私が間に入れば、みんなニコニコ。私のことが宝物のように大切なんですって！

お父さん：圭太さん
お母さん：智子さん (横山町)



小栗一太くん(1歳)

元気もりもり一太です。ご飯を食べること、ダンスが大好きです。暖くなったら、お外でいっぱい遊びたいよ♪

お父さん：敬太さん
お母さん：晴美さん (相生町)

山本梢太くん(3歳)
衣織ちゃん(11カ月)



はじめまして、いおりです。食べるのだいすき。おもしろいお兄ちゃんと、いつも元気に遊んでいま～す！

お父さん：真靖さん
お母さん：淑子さん (榎前町)

「わたしの望遠郷」、「ほっとタイ夢」、「元気っ子アルバム」コーナーでは、市民の皆さんからの投稿をお待ちしています。詳しくは、電話で秘書課広報広聴係(☎71)2202)へ。掲載者には記念品を差し上げます。
わたしの望遠郷→以前に住んでいたふるさとの思い出を紹介 ほっとタイ夢→夢や、ほっとする話を紹介

ほっとタイ夢

S Lの存在とモノ作りの楽しさを伝えたい
北岡茂治さん(緑町・75歳)

私の趣味は木工のS Lづくり。幼い頃は、木を削って作ったバットとハギレを丸めたボールなど、遊び道具を全て手作りしていました。だから、これもその延長です。

定年退職後、「地域のために何かできないか」と木工を習い始め、近所の家の収納棚などを作っていました。ある時、竹細工展で手作りのS L模型に出会いました。その繊細な作り、精巧な仕上がり。昔あこがれていたS Lが、このように作れるのかと衝撃を受けました。「自分も作ろう」と決心し、動き出しました。実物を見に行き、細部の写真を撮影。30分の1に図面を引き直し、部品作りから製作に取

り掛かりました。

現在13両を製作。自宅のほか、二本木公民館にも飾ってもらっています。同世代の人から「懐かしい」との声。また、S Lを知らない子どもたちの「すごい！いっぱい部品がついてる」と目を輝かせている姿を見ると、細部までこだわってよかったと実感します。

2年後の喜寿までに30両作り、個展を開きたいです。多くの人に見てもらい、特に子ども達には、実際に手

に触れてじっくり見て欲しいです。日本の経済発展に貢献したS Lという存在とモノ作りの楽しさを、子どもたちに伝えていきたいです。

